

慶應義塾における外国人留学生ドミトリーの近況

Housing for International Students

at Keio University

慶應義塾大学国際センター所長／日本語・日本文化教育センター所長／商学部教授 **友岡 賛**

TOMOOKA Susumu

(Director, International Center / Director, Center for Japanese Studies /
Professor, Faculty of Business and Commerce, Keio University)

◆ 賛辞！

「家賃は手頃で、みんな良い人。たまには憂鬱なこともあるけど、それも寮生活の一部だろう。」

「管理人さんもレジデント・アシスタントの人たちも最高。部屋や設備にも満足している。」

「すべてが素晴らしい。」

「部屋には必要なものがすべて備わっていて、ドミトリーの場所も素晴らしく、管理人さんはいつも親切。」

「とても広くて快適。必要なものはすべてあった。家賃を考えるととてもお得だった。」

「管理人さんはとても親切で快適な日々を送ることができる。レジデント・アシスタントの人たちも親切で、色々なイベントを企画して楽しませてくれる。」

「完璧だった！ 新しくて、すべてが備わっていた。管理人さんもとても親切だった。」

「とても新しくて綺麗だった。日々の生活に必要なものはすべてあった。」

「これまでで最高の日々だった。」

最初の「たまには憂鬱なこともあるけど、それも寮生活の一部だろう」については、なるほど、ビミョーに適切なコメントだな、という感じだし、最後の「これまでで最高の日々」については、これまでそんなにつまらない人生だったのか、と突っ込みを入れたい感じだが、それはさて置き、上掲のものは慶應義塾のドミトリー¹に対する外国人留学生の声²である。

¹ 「寮」や「学生寮」や「宿舎」や「寄宿舎」等、色々な呼称があるが、本稿にあっては包括的に「ドミトリー」が用いられる。

賛辞ばかりじゃないか、と思われるかもしれないが、賛辞だけを選んだのだから、それは当たり前である。

◆ドミトリーの意義

ボクもそのメンバーに名を列ねていた「留学生 30 万人計画実現に向けた留学生の住環境支援の在り方に関する検討会」という些か(?)長い名前の文部科学省の検討会(2014年設置)は下記のことをもってその趣旨としていた。

「外国人留学生が我が国の文化や慣習等について理解を深め、知日派として将来の我が国の成長に貢献できるようにするとともに、外国人留学生と日本人学生等の交流による内なる国際化を図るため、外国人留学生に対する宿舍支援、外国人留学生と日本人学生等の交流の機会の提供及び外国人留学生の生活支援の在り方等について検討を行う。」³

「我が国の文化や慣習等について理解を深め」てもらうにも「交流による内なる国際化」を進めるにも、大学のドミトリーは打って付け、といえようが、日本学生支援機構の或る調査資料によれば、2015年5月現在、外国人留学生の住所の内訳は大学等が設置する留学生宿舍が19.1%、大学等が設置する一般学生寮が3.1%となっており、合計すると外国人留学生の22.2%が大学等のドミトリーに暮らしており、しかし、これは決して高い数字ではないだろう。

◆ドミトリーの近況

2016年5月現在、慶應義塾においては389名の外国人留学生が八つのドミトリーに居住している。そのうちのいくつかは「留学生専用寮」と銘打っており、例えば2016年3月に入居が開始された最新のドミトリーもその一つで、全76室のそれは「居住空間は個室とし、共用部分にはキッチン・ラウンジや大浴場や音楽室を備え、プライバシーを確保するとともに、交流を促進する環境を提供しています」⁴とされている。しかしながら、この手のドミトリーの場合、日本人の「交流」相手は少数のレジデント・アシスタントに限られており、けだし、外国人留学生の多くが選好するのは日本人学生との混住型のドミトリーだろう。

そうした認識の下、以下の二つのドミトリー⁵の新設が予定されている。

² 原文は英語。友岡訳。後出の「酷評」も同じ。

³ 「留学生 30 万人計画実現に向けた留学生の住環境支援の在り方に関する検討会について」2014年3月31日。

⁴ 以下、この手の引用はパンフレットやチラシの類いより。

⁵ いずれも名称は未確定。

日吉国際学生寮

このドミトリーは外国人留学生と日本人学生がともに暮らす混住型のドミトリーとして2017年3月に開設予定で、慶應義塾のドミトリーとしては初めてユニット形式を採用する。各ユニットには遮音性の高い四つの個室と共用リビングが用意され、パーソナル空間と交流空間がいずれも確保される。さらには、中庭、集会室、ラウンジ等、ドミトリー全体としてのコミュニティが形成され、学生自身が主体となって種々の交流イベントを企画することができるような空間設計となっている。

国際学生寮@Tsunashima サスティナブル・スマートタウン

日吉キャンパスから程近い綱島地区に異業種の協業をもって開発されるTsunashima サスティナブル・スマートタウン（以下、Tsunashima SST）は技術開発施設、商業施設、水素活用拠点等からなる非居住空間と、集合住宅、そして慶應義塾のドミトリーからなる居住空間を併せ持った「次世代都市型スマートシティ」とされ、慶應義塾はこの開発を推進するTsunashima SST協議会にアドバイザー会員として参画し、ドミトリーの開設計画を進めている。慶應義塾としては街づくりと一体となったドミトリーの整備は初めてのことであり、Tsunashima SSTの街づくり構想にもとづく意匠を備えたドミトリーを2018年3月に開設の予定である。外国人留学生と日本人学生がともに暮らすことによって日常的に国際感覚を身に付け、多様性を学ぶことに加え、Tsunashima SSTの種々のイベントや住民との交流を通じて次世代を担う国際人が育成されることが期待される。

混住による「交流」が日本人学生にとっても得がたいものであることは言を俟たない。

◆ドミトリーの問題点

これも言を俟つことなく、今後、外国人留学生は愈々増えてゆくだろうし、また、増やしてゆかなければならず、したがって、ドミトリーの拡充が愈々必要となることは必至である。目下のところはどうか収容し切れているようにもみえるが、それとて学生用宿舎利用約款に「入居期間は1学年度以内とし、原則として期間延長は認めない」とされているからであって、はたして「1学年度以内」で宜いのか、ということも問われよう。

また、学生用宿舎規程には外国人留学生用のドミトリーについて「入居優先順位は次のとおりとする。1位：全学的な学生交換協定に基づく交換留学生 2位：別科・日本語研修課程に入学を許可された者または在籍する学生 3位：学部・研究科等個別部門の協定に基づく受入留学生 4位：上記以

外の国費留学生および私費留学生」とされており、目下のところ、異論は出ていないが、将来、逼迫が生じた場合には議論も生じよう。

さらにまた、家賃の問題もある。2015年11月17日改正の学生用宿舎規程の「学生用宿舎家賃一覧」と題する別表1によれば、外国人留学生用のドミトリーの家賃は最も安いものが72,000円で入居者本人の負担は51,000円、最も高いものは111,000円で入居者本人の負担は78,000円ということで、いずれも約3割を慶應義塾が負担しているのだが、ちなみに、かつてはそのことが外国人留学生には余り知られてなく、例えば51,000円の家賃を高過ぎると思う外国人留学生は、しかし、21,000円を慶應義塾が負担しているからこそその51,000円、という事実を知らず、これは当該外国人留学生にとっても慶應義塾にとっても不幸なこと、ということで、何年か前に、家賃はその3割を慶應義塾が負担している、ということをはっきり知らせるようにはしたものの、格安のシェアハウスも散見される昨今、それでも家賃が高過ぎると思う外国人留学生は少なくない。

他方、上記のこととは観点を異にするが、例えば夏期休業中等には種々の短期プログラムの類いにドミトリーを利用したいところながら、そうした時期に部屋を空けてもらうという制度がない。

(前出の留学生30万人計画実現に向けた留学生の住環境支援の在り方に関する検討会(長い……)においてボクは日本学生支援機構の東京国際交流館等を大学等の短期プログラムの類いに利用させることを提案したが、あえなく却下されてしまった。)

◆酷評？

「余り綺麗ではない。」

「とても古くて設備の多くは故障している。」

「三田キャンパスからとても遠い。おまけに部屋には何も無い。料理用具も食器もアイロンも……だから、たった半年のために買わなくてはならないが、とても無駄。前の居住者も同じものを買っているのだから、部屋に残しておければ好い。しかし、それは禁止！」

「ほかのドミトリーと比べて家賃が高過ぎる。」

「とても古い。時々ゴキブリを見掛けた。それに訪問者に関するルールには納得できない。もう大人だから、自分で判断できる。」

「家賃は安い、中心街からとても遠い。」

「集団生活のためのルールがたくさんあったが、みんなほとんど守ろうとはせず、レジデント・アシスタントも何もしようとしなかった。」

「中心街から遠いのに家賃が高い。」

「暖房の効きが悪く、冬の寒さはまるで中世のようだった。」